

国東町泉福寺の上棟札

上田忠男

国東町横手の泉福寺では、昭和六十一年二月、県教育委員
会による近世社寺建築調査の予備調査に際し、更めて山門の
扁額銘（享保二十年）並びに上棟札（元禄七年）全文の解読を
行ったが、上棟札の方は仏殿（大雄殿）と山門の二字の上棟
に関するものであり、記事中には「或人有惡主破却堂塔僧舍
了、泉福所幸存仏殿山門之二字」とあって、この二字が天正
年間の大友兵衛から免れたという注目すべき記述も見られ
る。これまでに全文は公表されていないので、今後この方面
の研究の参考になればと思ひ報告するものである。

なお、現物は板の腐朽も少なく、表裏共に楷書の墨跡が明
瞭である。表面は七行の七三八字、裏面は一行の八字書き
で、板の寸法は縦二〇四センチ、横一八・五センチである。

また、原文の旧漢字・俗字等は常用漢字に改め、返り点・送
り仮名・読点を施した。末尾の補注は筆者によるものである。

上棟札原文

(表面)

原^{スル}夫^ニ豊後^ノ州国東郡妙徳山泉福禪寺者、永和乙卯年、田
原下野守平正晴之慈母無伝尼公之師創也、請^{シテ}著翁禪師^ヲ開堂
演法、堂宇房舍悉皆全備、実^ニ是^レ西海^ノ法窟也、曾^テ聞^ク歴^{シテ}百
歳^ニ後^ニ一旦回祿志^ス其^ノ歲月^ヲ矣、大永四甲申、歳、璋山派下之僧
雲叟岳修^{シテ}造^ル大殿^ニ、余来^リ到^ル于^ニ今^ニ、凡^ソ一百七十余歳也、其^ノ中
間世乱^ル久矣、或人有^リ惡主^ニ破^ク却^ル堂塔僧舍^ヲ了、泉福所^レ幸^ス

存三仏殿山門之二字、然修理失時、梁棟傾斜、基陸頽毀、其餘近代諸師隨分修造之、今現存物は也、予元禄己巳移禪山、住山已歷五星霜、此間依曩祖古規、改三繙衲時弊、正三封疆、亂三僧舍、廢三然、到三此二字不克奈何、如三短臂、不三及三痒所、徒勝三歎息矣、于茲有淨土主門長老者、或時語予云、仏殿崩倒、想在于近、何為不修之乎、予云、吾常念茲、在茲奈之囊無阿堵物、何問云師若如是、吾輩作三化主、勸三化諸方、作三幹縁、敢乞勸之、予聽此語、胸次廓然、如三解三鬱結、勸喜何可言乎、則集三會、五院三暨三隣寺、長老具告、前事更問如何、諸師皆道、跋三涉諸方、募化、加助、衆議已窮、而再興之事決于茲畢、是實元禄五壬申春也、其年八月、開山禪師三百年忌、末山諸老遠近悉集來、或夜會于方丈、告三前、因由三更請三募化於諸寺、檀越、皆応諾、無三違者、於茲淨土、鉄門本護、監院鉄関、延命元海、禪林岩若、玉林義徹、東光密巖、常聚大享等、分手遊三化諸方、于時予領三本護龍潛二刹、故先出龍潛之寺物、白銀五百目、以為三幹縁之始、次教三本護、檀越各々随分捨淨財、更以三椀、円座一十四箇、喜捨之、有官事、次年正月十八日、予往三江府、清水規外和尚代領三寺務、永照宝山等相隨、勤勞矣、官事已了、同年四月

九日、掃山依旧、住山伍院隣寺、着三精彩、作三勲功、遠近、山出三信力、助三縁、十方、道、俗貴賤男女見聞、隨喜、而無有不出三隻手者、故大殿不日、弼竣全復、三往昔者也、仰願皇風永扇、帝遊、昌、仏日增、輝、法輪常、転、伽藍土地護、法安人、十方、施主、増、福、増、慧者、也、皆元禄七甲戌、歲五月十四日、前、再住、総持、現、泉福二百八十一世、嗣祖沙門無依、知幻堂誌焉、元禄壬申、冬、材木切、三取、始、癸酉六月二日、木屋入、甲戌五月十四日落成、大工千九百八十八人、杣取四百三十三人、夫遺忽、而三千三百七十四人、

〔裏面〕

上棟仏殿三門二字

〔補注〕

回祿 火神の名、転じて火災の意、大永四甲申歳一五二四年、璋山、諱は融桂、璋山は号、信濃の人、無着の弟子、応永二年泉福寺を葺す(四世)、期満ちて豊前護照寺に返く、応永二十三年寂、壽八十三、雲叟岳、岳は名の一字であらう、享保二年泉福一三三世である筈、悪主、悪い領主、暗に宗麟を指す(妙徳山泉福禪寺記)、元禄己巳秋(元禄二年(一六八九)秋)、住山、五ヶ年再住はこの人

だけ、ある文書には元禄二年より同六年までとあるが、元禄二年秋より同七年秋までと史料される。鼻祖 開山を指しているのである。封疆乱 領内の争いや乱れという程のことか。浄土主門長老 浄土寺の寺務総理をする長老、長老は比丘中の修行学徳にすぐれた年長の大比丘を称するそれであろう、禅宗では住持和尚の敬称にしたり（正法眼蔵随聞記に用例）するそうだが、それではあるまい、方言では住職でない年長僧や一般僧をいう場合もあるが、これも当るまい。化主 ケシユ、市街に出て衆生に施物を乞い寺の費用を弁じ、また法を説いて結縁する僧とあるのがそれであろう、禅林象器 箋一職位に「街坊化主或単言化主」とあるが、永平寺道元禪師清規 一赴粥飯法には「知客、浴主、堂主、岩頭、街坊、化主等在堂外下間坐」とあり、ここでは街坊と化主とを区別していたようである。勸化 カンゲ、人を勧めて三宝に浄財を寄附させること。幹縁 カンエン、堂塔佛像の建立修復に要する経費を勧進寄附させることによつて、仏縁を結ばせること。敢乞 努めて乞食勸化する意か。集会 シユウエ 暨 暨、オヨブ 募化 ボケ、募縁ともいう、募集勸化の意で奉加を募るをいう。加助 助縁に同じく募縁を援助すること。元禄五壬申 一六九二年 本護監院鉄関 本護寺の監院の僧の鉄関、監院は泉福寺の管理職名 頌 リヨウス、寺務をあずかった、

なお竜潜寺は国見町にある。白銀伍百目 元禄五年の大坂米相場を一石四六、七匁とすると、五百目は米一〇・七石か。官事 官役、カンヤクで勤勞出仕の意か。江府 近江 清水規外和尚 清水寺は宇佐市清水にあり、規外和尚は泉福四四三世嗣祖。信力 シンリキ、三十七道品の一である五力の一、信根増長して諸の邪信を破砕するもの、即ち信仰の力をいう。助縁 募縁を援助すること。伽藍土地 伽藍神と土地神、従つて白山明神と竜王（竜神）。慧 エ、惑いから逃れるはたらき、正覚にいたる力。元禄壬申 元禄五年（一六九二） 癸酉 元禄六年 甲戌 元禄七年